

911.3

才

上・下





生記命 二つあるいふこととある  
いふこと

稲妻 一秋の夜分の稲妻は面外に稲妻は表に稲妻は二つある  
いふこと

いさひり 難に北原を雷に面外に面外  
衣帯

ぬの乃花木 北原の 稲道 秋の夜分を稲道 いさり 一徳大

いさり いさり 大 一徳大 衣帯

いさり いさり 大 一徳大 衣帯

いさり いさり 大 一徳大 衣帯

出子日 稲妻を打成 泉 反之水不可付和泉 板 二板の 板間 板

市 二丙名所 市 二丙名所 市 二丙名所 市 二丙名所

いさり いさり 大 一徳大 衣帯

入相 下乃白又ハとちいぬ 系 一徳大 軍



竹葉青竹...  
六尺 八寸  
六尺 八寸  
六尺 八寸

六字 老 年 果  
六尺 八寸  
六尺 八寸  
六尺 八寸

六字 老 年 果  
六尺 八寸  
六尺 八寸  
六尺 八寸

論 義  
六尺 八寸  
六尺 八寸  
六尺 八寸

花はゆぐさ

もくろ人地

花乃都

花乃都

花乃









よきものよ まふくさき よきものよ

新枕 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

く あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

人回 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

八道 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

煮 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

無 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

牡丹 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

郭 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

竹 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

と あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

可夜 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

か あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

花 あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ

りゆ カ 聖 ニニ申ノ見見リ 介 ハ 布袋 一袋ニ入ル

は眼 ハ 法論 ハ 常 ハ 汗 ハ 力 ハ

一 カ 老 ハ 燬 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

男 ハ 下 ハ 學 ハ 懼 ハ 子 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

法 ハ 輝 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

か ハ び ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

一 カ 骨 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

は ハ 皇 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

部 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中 ハ 一 カ 火 ハ 中

へびいんちりやと  
からま  
満

運車  
脚

赤又天  
床

虎  
床  
五成下

床  
病入床  
床

代床  
細代床  
床

の床  
火  
灯

火  
火  
火

火  
火  
火

火  
火  
火

火  
火  
火

火  
火  
火

火  
火  
火

火  
火  
火

和名 豊後 豊後 明乃 節

同志 人傳より

宿直 一夜か

卯儀 一長は

政 一人傳

徳 二対

名苗 二名を

花 二名を

花 二名を

花 二名を

花 二名を

と 二名を

と 二名を

と 二名を

もろろの

徳 二対

徳 二対

徳 二対

徳 二対

徳 二対

徳 二対

ち

塵 ちりり

千 ち

千 ち

千 ち

千 ち

千 ち

千 ち

千 ち

千 ち

千 ち

種 ち

種 ち

種 ち

淡 ち

淡 ち

淡 ち

巻 ち

巻 ち

巻 ち

同 ち

同 ち

同 ち

同 ち

同 ち

同 ち

同 ち

同 ち

同 ち

此字 四新書ハ秋ニ 焚ヤ折ル 白折ルノ意ニ 呪ハ 此ハ

児ハ ハ 知ハ音ハ ハ 茶ハ ハ

内ハ ハ 榮ハ ハ 榮ハ ハ 子ハ ハ

佛ハ ハ 長者ハ 地ハ藏ハ ハ ちハ ハ

ちハ ハ ちハ ハ ちハ ハ ちハ ハ

賃ハ ハ 千ハ ハ 千ハ ハ 畜ハ ハ 畜ハ ハ 畜ハ ハ

地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ

走ハ ハ 走ハ ハ 走ハ ハ 走ハ ハ 走ハ ハ

地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ

地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ 地ハ ハ

龍ハ ハ 龍ハ ハ 龍ハ ハ 龍ハ ハ 龍ハ ハ

利ハ ハ 利ハ ハ 利ハ ハ 利ハ ハ 利ハ ハ

律ハ ハ 律ハ ハ 律ハ ハ 律ハ ハ 律ハ ハ

秋ハ ハ 秋ハ ハ 秋ハ ハ 秋ハ ハ 秋ハ ハ





把 一入使 伯父 伯母 人使ら 乃 二白 乃 二白

親 一人使 乃 二白

**レ**

乃 二白 乃 二白

一葉 二白 一葉 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

乃 二白 乃 二白 乃 二白 乃 二白

四もくちくか 菊 夜 菊葉 分た字

あなをみほら 概 ころろ 概

太刀刀 結ら 股 輝らら 後徒

あそり 戯 話

和歌 王 紙

二年后 といら 紙

加哉 紙

飲食 隱家 葛城 厩

隠し字 垣

井

井

井

持

持

二相も八條の... 色... 條の... 此の...

條... 相... 非... 條... 此の...

年... 向... 征... 條... 此の...

法... 衣... 條... 此の...

條... 條... 此の...

法... 條... 此の...

條... 條... 此の...

如く見よ神と云はるる... 此の...

足字... 條... 此の...

條... 條... 此の...

二月... 日... 此の...

教... 條... 此の...

萱... 條... 此の...

本... 條... 此の...







て勅神を  
うそくしむ かりりめ  
いけり面とほく  
此れは

此実 赤心 寛 寛  
多を也 寛 寛  
全に獲すは是 寛  
此れ也

一あまうま  
わくまう一 かつまうく  
こ 願鬼 願鬼  
方おわとまう

書 三 津魚 津魚  
ま ま 魚 魚  
又つる人 又つる人  
か か 半 半

か か 腕 腕  
腕 腕 皮 皮 草 草  
か か 人 人

人 人 二 二 毛 毛  
人 人 二 二 毛 毛  
人 人 二 二 毛 毛

三百 替 替 字 字  
二 二 百 百 限 限 字 字  
二 二 百 百 限 限 字 字

か か 代 代 毛 毛 比 比  
代 代 毛 毛 比 比  
代 代 毛 毛 比 比

**代** 代 君 君 代 代 又 又  
君 君 代 代 又 又  
君 君 代 代 又 又

ち ち 王 王 世 世 代 代  
王 王 世 世 代 代  
王 王 世 世 代 代

世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代

世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代

世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代

世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代  
世 世 代 代 世 世 代 代

くは行て しあふふてし 人 人徳西條し ちのひれとちら田ちら

もち若し 年れまのち居ま字はちのち二千字 ちのひれとちら田ちら

ちとみこれ 四十字と云のちりしあまのちまのちあまのち ちのひれとちら田ちら

老いあは ちのち ちのひれとちら田ちら

ちのち ちのち ちのひれとちら田ちら

くは行て

もち若し

ちとみこれ

老いあは

ちのち

くは行て

もち若し

ちとみこれ

老いあは

ちのち

くは行て

もち若し

ちとみこれ

老いあは

ちのち

くは行て

もち若し

ちとみこれ

老いあは

ちのち

くは行て

もち若し

ちとみこれ

老いあは

ちのち

結乃字 三白 撰 四 嫁 一 多乃 二 乃 三 乃 四 乃 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

**九**

神用 乃字 乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五

乃字 一 乃字 二 乃字 三 乃字 四 乃字 五



人高けられも大なる小者入移しけりこのりていさるり口  
うらまのりい冒小者いさるるをいさるるりとも難あり

氏れゆと 惟馬 結 一船生れぬもよ移入水運妙れ  
所は 結 結いさるるれり一辰の市常

七夕 牽牛織女月日は 七夕 板かへ年の後り大急  
七夕 二白ちん付てはら若 七夕 紫れ桂懸結れりあ

七 七衣非衣 七夕 一ちり 田 田義 結 結いさるるれり一辰の市常

高野山 北尺者高野山 高根 一ちり 岩根 一ちり

高妙 高妙れ 谷 谷れり 谷 谷れり

被 被れり 多 多れり 多 多れり

終 終れ字 色 色 妙 妙 乃 乃 字 字 港 港 乃 乃 字 字 立 立 母 母 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字

乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字

乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字

乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字

乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字

乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字

乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字 乃 乃 字 字

こりく 俗子 聖 大報

大志 大思 高

俗子 聖

大志 大思

大報

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高







使一人他之... 妹...

月日... 儼名...

九折... 付の字...

九折... 月日...

九折... 付の字...

九折... 月日...



乃りよ 一 秋のひ ニ言え 念 四念者人佛 龍戸 居所

のひ 一 秋のひ ニ言え 念 之あり 龍戸 居所

あり 年忌 思 氣火 死火に多 秋なるに おんこ

あつらひ ハ 音 ニ言え之取入 ねと 秋分 練の字

秋なる 秋分 秋なる 三 ねきよ 九二 練の字

秋なる 二 秋なる 一 秋なる 三 秋なる 四

秋なる 五 秋なる 六 秋なる 七 秋なる 八

秋なる 九 秋なる 十 秋なる 十一 秋なる 十二

秋なる 十三 秋なる 十四 秋なる 十五 秋なる 十六

秋なる 十七 秋なる 十八 秋なる 十九 秋なる 二十

秋なる 二十一 秋なる 二十二 秋なる 二十三 秋なる 二十四

秋なる 二十五 秋なる 二十六 秋なる 二十七 秋なる 二十八

秋なる 二十九 秋なる 三十 秋なる 三十一 秋なる 三十二

秋なる 三十三 秋なる 三十四 秋なる 三十五 秋なる 三十六

秋なる 三十七 秋なる 三十八 秋なる 三十九 秋なる 四十

雨うりぬは 菜ワチ所は 洞乃雨方也 満

洞川 杜あまきり所 洞は袖乃月 二高地所 洞は

生れはゆへに痛 さめどあく 泣 一多はすれのあま

言 あくに けしれのあ なうくとあ ち あつ ち

鳥 志と法歌と歌歌と心と 歌と木 たが

ち 鳥歌とありて 浪乃木 此の花は

ま あま 名 一多 ち あま ち

を やう の ま 余 は ち あま ち

無 り ち あま ち あま ち

也 と ち あま ち あま ち

成 れ ち あま ち あま ち

成 れ ち あま ち あま ち

也 と ち あま ち あま ち

也 と ち あま ち あま ち

津 津波は水色に似 津波津乃とあり 津波は水色に似

津乃風 津波の事なり 津波 二つありて あり 津波

おもえし 津波の事なり 津 津波の事なり 津 津波の事なり

交乃月 月乃交 交乃夜 津波の事なり 中

津 津波の事なり 津 津波の事なり 津 津波の事なり

おもえし 津波の事なり 津 津波の事なり 津 津波の事なり

風中ごとく 一さうし 振 二さで 并 七白 繩 二九 長

れ字 七白 於 二白 の字 二白 無 二白 の字 二白 長 二白 抗 二白

也 二 ち 二 く 二 の 二 ち 二 某 植物 は 二 か 二 ず 二 の 二 情 二 南

寮 一 振 二 わ 三 勿 二 子 一 文 二 承 三 子 二 子 二 子 二 子

ニ 二 五 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

豆 七 白 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

南 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子 二 子

燭ラウ 一板  
らラウ 一板  
燭ラウ 一板  
燭ラウ 一板

羅生門ラウ 一板  
樂ラウ 一板  
羅漢ラウ 一板  
知塔ラウ 一板

根ラウ 一板  
癆瘵ラウ 一板  
羅漢ラウ 一板  
知塔ラウ 一板

本ラウ 一板  
折ラウ 一板  
鋪虎ラウ 一板  
虎ラウ 一板

虫ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

鳥ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

二ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

三ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

四ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

五ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

六ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

七ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

八ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板

九ラウ 一板  
昔ラウ 一板  
村雨ラウ 一板  
村雨ラウ 一板



きぬ ニウラ 村母里 不<sub>レ</sub>付村の一母也 夢想 二天

森 武藏 一むら 麦 一及<sub>レ</sub>兼<sub>レ</sub>是若<sub>二</sub>口

子 標乃木 一標 古 一古

う 一う 爲 一爲 浦之浦 二白 埋 四 占 二占 生 二生

は 一は 乃字 一乃 生 二生

う 一う 乃字 一乃 生 二生



小異付 野乃苑 野乃苑 のほり 梁 梁 葺 葺

女 女 菊 菊 婿 婿 弓 弓 野の宮 野の宮 別 別 津 津 極 極

菊 菊 野 野 野乃苑 野乃苑 野 野 野乃苑 野乃苑 野 野 野乃苑 野乃苑

野乃苑 野乃苑 野乃苑 野乃苑 野乃苑 野乃苑 野乃苑 野乃苑

昔ちよ 二の念ふと海 野 編 巻 旬 はん 佛の事

**老**

老 一画横くろく一毛もよ 老は人の老白髪をいふ事とも不樂

可哉と 老也 後ゆはやくて 老よ 破二白 老よ 後ゆはやくて

不 老 門 此は 老よ 白髪 老よ 齡 老の 老よ 不 老

門 老よ 許毛公非を 羅よ 老 二白を 抱病 老よ ひよ

大 井 川 井 此字 親よ 子 二白を 作の子 作て

尾 免 尾の字 免乃字 面 親 三月月 免より入て

葉 葉の 葉 此は 叶 葉の 他人 傷を 免と

あひ ぬ 火とりの ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

あひ や 子 三白の 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

大 津 秋入 竹乃 葉の 白の 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の

面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面

お ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度

下

さるとりうらよ一丸程の既成の四度乃をまこわし丸程は丸程

よかまうしとまうし付くそら着る但度程よ中付ると程程よと心

度ぬ上三三程衣程の丸程帯まの勝よ女と帯女と

あり女と帯女とあり女とあり女とあり女とあり女とあり女とあり女と

あり女とあり女とあり女とあり女とあり女とあり女とあり女と

さるとりうらよ

よかまうしとまうし

度ぬ上

あり

三程衣程の丸程帯まの勝よ

あり

三ツ上 **男山** 米飯よりわく手存るあり **飛天** 一なるいおわと地



**熊** 一匹乃皮くすぞさくは熊也然故 **車** 一江車上水車一草車

香車小車一灰車ゆ老 **系花** 花の系れ居居可く花 **曇** 雲

四月の鏡より一糸れ折より一愛星花 **雲** 大内乃事く之也 **雲丹**

**雲丹** 大内乃事く之也 **雲丹** 大内乃事く之也

くれば竹乃う

くれば竹乃う

くれば竹乃う

暮

三白まの夕の字の二白まの夕若ま秋  
の書若れ若夕四分より二白まをより

白所より

白所より

蜘蛛子

蜘蛛の子をくわえてゆくはよくよ面  
蜘蛛の子をくわえてゆくはよくよ面

とんぼ

下は空二白まの  
下は空二白まの

とんぼ

とんぼ

とんぼ

とんぼ

串鮑

串鮑

雲

雲

木

木

生

生

功徳

功徳

三

三

一

一



秋の心 あきこころ 秋の心 あきこころ 秋の心 あきこころ 秋の心 あきこころ 秋の心 あきこころ

山鳥 やまどり 山鳥 やまどり 山鳥 やまどり 山鳥 やまどり 山鳥 やまどり

山八崎 やまやち 山八崎 やまやち 山八崎 やまやち 山八崎 やまやち 山八崎 やまやち

山陰 やまかげ 山陰 やまかげ 山陰 やまかげ 山陰 やまかげ 山陰 やまかげ

山科 やまのり 山科 やまのり 山科 やまのり 山科 やまのり 山科 やまのり

山重 やまかさ 山重 やまかさ 山重 やまかさ 山重 やまかさ 山重 やまかさ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ

山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ 山字 やまごじ



松若 二 志 三 薄 四 九色二入是難判ハ色編  
たう薄ハ松入と抄知ス

眉 二 眉 三 眉 四 二眉同尺  
まうくねい 二 眉 三 眉 四 二眉同尺

尾糸 四 尾 五 尾 六 二尾同尺  
まうくねい 二 尾 三 尾 四 二尾同尺

由 二 由 三 由 四 二由同尺  
まうくねい 二 由 三 由 四 二由同尺

侍 二 侍 三 侍 四 二侍同尺  
まうくねい 二 侍 三 侍 四 二侍同尺

乃 二 乃 三 乃 四 二乃同尺  
まうくねい 二 乃 三 乃 四 二乃同尺

乃 二 乃 三 乃 四 二乃同尺  
まうくねい 二 乃 三 乃 四 二乃同尺

又 二 又 三 又 四 二又同尺  
まうくねい 二 又 三 又 四 二又同尺

吏 二 吏 三 吏 四 二吏同尺  
まうくねい 二 吏 三 吏 四 二吏同尺

九 二 九 三 九 四 二九同尺  
まうくねい 二 九 三 九 四 二九同尺

盲 二 盲 三 盲 四 二盲同尺  
まうくねい 二 盲 三 盲 四 二盲同尺

町 二 町 三 町 四 二町同尺  
まうくねい 二 町 三 町 四 二町同尺

糸 二 糸 三 糸 四 二糸同尺  
まうくねい 二 糸 三 糸 四 二糸同尺

糸 二 糸 三 糸 四 二糸同尺  
まうくねい 二 糸 三 糸 四 二糸同尺

三子孫 三子孫 三子孫  
鞠 一蹴鞠  
松風 松風  
里 里

卷 四今人も四六の巻に  
卷 二 一白うりし  
松 松

豆 一白うりし  
春 非は  
ま 二白うりし

任 任  
字 字  
任 任

字 字  
先 先  
字 字

煙 煙  
白 白

煙 煙  
白 白

色 色  
白 白

黙 黙  
持 持

傾 傾  
城 城

下 下  
戸 戸

氣 氣  
毛 毛

道 道  
喧 喧

曲 曲  
去 去  
開 開  
秘 秘





尺ノ下 一葉よ 子ヲ おはれ 長 おはれ 小 おはれ

杖持 三白去 一各 あて 一 あて 人傷 三葉よ 人傷 三葉よ

伏 あて 一 あて 一 あて 風呂 三葉よ 風呂 三葉よ

普請 一家 普請 一家 普請 一家

古 コ 古 コ 古 コ

秋 秋 秋 秋 秋 秋

二 二 二 二 二 二

三 三 三 三 三 三

今 今 今 今 今 今

面 面 面 面 面 面

解 解 解 解 解 解

水 水 水 水 水 水

求 求 求 求 求 求

字 字 字 字 字 字

二 二 二 二 二 二

く

水乃く

く

く

く

く

く

細く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

水乃く

細く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

く

五十五

結付ても、キ東風ヒさす  
さしめず、キ東風ヒさす  
さす

さす、キ東風ヒさす  
さす

甲かきまると、キ東風ヒさす  
さす

志ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

見布ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

越路ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

金剛ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

食人ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

備前ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

具ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

呉服ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

今ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

今年ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

梅ヒさす、キ東風ヒさす  
さす

備前ヒさす、キ東風ヒさす  
さす















あつら 一丈高きうへに二丈高き 物あり 一丈尺高き

行ふ付 サツビ 備馬 不乃名 草 木 少くとも 里 林 示 米 城 し

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城

名 名 里 里 示 示 米 米 城 城



くわん 二名新母辰品以三石  
けい 心 乃字面  
い 心  
い 心

い 心 乃字面  
い 心  
い 心

不乃也  
あしは 報乃字更在サハ二里以百サハ一サハ三味サハ文サハ三乃

とゆり 二乃侍サハ一人 二乃坂サハ二乃坂サハ二乃坂サハ二乃坂サハ

二乃様 二乃合サハ二乃合サハ二乃合サハ二乃合サハ二乃合サハ

定乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字

二乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字

二乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字

二乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字 二乃字

きぬく 一乃く 二乃く 三乃く 四乃く 五乃く 六乃く 七乃く 八乃く 九乃く 十乃く

今報 今報 今報 今報 今報 今報 今報 今報 今報 今報

本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と

本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と

本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と

本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と

本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と 本と

不のあゝ 執乃字 思在 一里以右 三昧 又

とゆり 二白侍 一人 けり 坂 乃字 二乃所ハ

二様 今此よ云く只なる 四 二辨乃四 城乃字 二乃所ハ

定れ字 崎 二名 林 二汁、 二乃所ハ

き 蚕 一葉の虫の也て金蜘蛛の如くもなるて 二乃所ハ

と八平 一様衣を衣打と云衣は二乃所ハ

一様衣を衣打と云衣は二乃所ハ

きぬく

一衣の紐を衣の紐を衣の紐を二乃所ハ

二乃所ハのさぬく 木らり 木とこ、 一方物也

木とこ、 四つとも 木乃焼 其の字も 九段又

木乃焼 木乃焼 其の字も 九段又



夕暮 二夕五乃日よせこころ 夕の暮 夕の暮

夕立 二夕立 夕立 二夕立

夕立

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, similar to the top page. It contains approximately 10 lines of text. A small square seal or stamp is visible on the left side, about halfway down the page. The text is dense and difficult to decipher due to the cursive style.

いし 意人 月科 一尺一 月科 二尺五 月科 一尺一 月科 一尺一

名女 七尺五 名女 七尺五 名女 七尺五 名女 七尺五

**み**

二此病を造りしなり 二尺五 二此病を造りしなり 二尺五 二此病を造りしなり 二尺五 二此病を造りしなり 二尺五

名女 七尺五 名女 七尺五 名女 七尺五 名女 七尺五



冬冬... 右... 義... 水... 入... 三...

都... 水... 牧... 水... 入... 三...

美... 水... 皆... 入... 三...

水... 陵... 基... 未... 練... 水... 入... 三...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水... 水...

麻の角 麻毛の筆麻枝下麻糸糸の麻ひこ

下 下糸

麻の角

麻毛の筆麻枝下麻葉の麻の角  
能く細くはれよ麻をけりてなるよ  
能く細くはれよ麻をけりてなるよ

秋 下のりえ

下系

下系

下系

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

母の車

道

道

道

道

道

道

道

道

道

白尾鷹

ましましに付白屋水也水也と云ふ 三味線のナリ葉に應也應也 後此三葉を三葉と云ふと云ふ 亦よ三葉を三葉と云ふハ小

物也 志と云ふ 乃と云ふと云ふ云々人入也人入也 亦と云ふハ尺

二葉と云ふと云ふ云々ハ尺 尺紙と云ふ 尺紙と云ふ 亦と云ふハ尺

物也 乃と云ふ 乃と云ふハ尺紙と云ふ 亦と云ふハ尺

亦と云ふハ尺紙と云ふ 亦と云ふハ尺紙と云ふ 亦と云ふハ尺











も

物とさく **も** 三十九下の白 **お** お

**紅茶橋** 四の西 **お** お

も

**お** お







水邊の穴の 硯 二硯一所凡所の硯の心は硯の心  
石を名所の硯の心は硯の心

也硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

己名所の 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

一炭爐皮電又二たんに 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

二白雲ありんく 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

お探 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心

硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心 硯心



○ 假名遣大統

一中ハえと書申 中とゆふをては中ハえと云

越

こほろ

消

きえ

剛

きこゆる

流

あえ

財

あえ

是

あゆえ

燃

あゆえ

肥

こゆる

金

あゆえ

財

あゆえ

一かとゆふをては中ハえと書申 中とゆふをては中ハえと云

云不

あゆえ

り

庵

か

不

教

う

不

教

う

一控乃と書申

小乃まきとも書申

と

あゆえ

と

あゆえ

と

あゆえ

と

あゆえ

と

あゆえ

と

と

あゆえ

と

あゆえ

と

あゆえ

と

あゆえ

と

あゆえ

と

一物乃其大まづとも其のと成り

むのそ 次はと 休はと きのへを

一と其まふとも其のをし

まのそ まのそ まのそ まのそ

一物の若らるとも其のをし

とととと 種のとと 田のとと 山のとと 川

まのれ省とと づらとも奥にたてあかす

一とまの まのつら どのつら どのつら

一とまの まのつら どのつら どのつら

一とんやうい其のとほくとと奥にた

一奥乃に書キ 大の字つともたつのか成り

むのそ 大のむのそ 大のむのそ 大のむのそ

はやえ山 大のむのそ 大のむのそ 大のむのそ

一尾の字つとも奥にたつら

まのそ 大のむのそ 大のむのそ 大のむのそ

一所乃字つとも奥にたつら

かりまの かりまの かりまの かりまの

一流のへと書キ 大のむのそ 大のむのそ 大のむのそ





ひのほ じまらぎて ひまはせ 只山風

ひめ じま うんいひまて

一 ちのく 又字のくま 藤をらよ 雅然とみえ

一 舟波とみえ 芝荒とみえよまのれん

一 又人だらへまうんとま 一 地なまのたへとま

右はつかれまうとま 他名おかり一字ありつらま

はく 中のお奥のひをどかりかか

半もゆらかりましくたふし 唯他品違は奉一 脚

已 西余の唯とま

誤和式

一 茅唱句之事

茅唱句とま 蒼白の事 ちまら 田を内なる事

を除きて 脇の句に 韻字をまふしたる心

必 有 都 花 見

ちまら 報の字に 諺 臻の報のま字なり 花の

字に 麻乃 報のま字なり 二ののま字を除きて

何とれ 韻めても 脇の句に 報字をまふし 但し 一

白のへ 韻字とつらま ともどと 俳諧まはて

志をて其かまひか

二四不同之事

●●○○●● 毎句二と四を不同

●●○○●● 二字め仄字をわし四字め平字をいふ

●●○○●● 是ハ平字あてと仄字あても兩筋あり

句一から仄

●●○○●● 句一から成とと

●●○○●● 句二の字めと字めを同下接

●●○○●● 句二を嫌ふ

三四字一平之事

上乃句 ●●●● 見二四不同なりも四字仄字あて

下乃句 ●●●● 見二四字あてなりも四字平字あて

但し秀逸乃句なりハ右筋ありとよく用ひ綴せ

あり句なりハ百約なり丁所ハ免をもり

二四下連事

上乃句 ●●●● 見二四下連なりも四字平字あて

下乃句 ●●●● 見二四下連なりも四字平字あて

○ 平仄起之事 二字めを起とす



二句の字句の両方二句づから之を不美なり  
て出づる如漢公からよ一旬ゆふ下  
五句玄三句玄の物いづるに韻字にぬまんとつた  
けつたてし<sup>た</sup>物いけし<sup>た</sup>たうす<sup>た</sup>元鬼痕の  
韻の字を<sup>し</sup>

通 龍 番 月 夜

番乃字元鬼痕ふての音ハレ訓ハつるの如  
あつて<sup>し</sup>續<sup>し</sup>たりい<sup>は</sup>び<sup>と</sup>よ<sup>び</sup>時ハ秋ノ韻<sup>り</sup>て  
韻ハ也元鬼痕ハ韻ハあつて<sup>し</sup>ゆ<sup>ふ</sup>は<sup>ひ</sup>て<sup>し</sup>不<sup>吉</sup>

韻外字ハ三ノ意ハし<sup>は</sup>つ<sup>て</sup>も<sup>ろ</sup>う<sup>て</sup>は

漢句和句共し五句まで漢句一但漢句對よ  
至てハ右句けもてもろ<sup>う</sup>て<sup>は</sup>け<sup>ら</sup>ハ句ハ五句と  
限りと<sup>は</sup>し

漢句ハ漢句と<sup>し</sup>付句も漢句と<sup>す</sup>七言ハ文句  
あつて七言ハ對よと<sup>す</sup>其以下ハ五言<sup>なり</sup>ても

今<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>は</sup>け<sup>が</sup>拵<sup>は</sup>合<sup>は</sup>ば<sup>は</sup>常<sup>ハ</sup>俳諧<sup>ハ</sup>同<sup>ナ</sup>り

疊字ハ<sup>テ</sup>確<sup>シ</sup>なり一<sup>座</sup>ハ八句まで<sup>なり</sup>て<sup>は</sup>なり

同一面を嫌ふ之上中下と重なりをも<sup>は</sup>べ



對しとてくは

合掌對として悪きゆり是は兩乃子と云ふなりやうに  
付とあるを嫌なりに入し天地有無寒暖長  
短大小善悪の心乃れなり

或人曰合掌對といふは物と長作意とや  
ひをて曰にさう長芽唱句と

糞 鱧 朱 茄 汁

是し合掌對として

増 鱧 青 蓼 饅

唱句ハ論語陽貨乃篇ハ惡莠之糞  
糞也と云語よとがりて作より俗よ朱  
鱧といひて切に乃赤きゆり糞ハとて以て  
紫をとりてさう對乃句ハ鱧を糞鱧とい  
たり糞として饅のくよせういまるこをま  
しめつてゆきはう屋うは魚子魚也字  
と多子食類と食類立乃指を合さる  
るおしく對とさうと又ハ唱句よ合掌對  
をうさる對ありと

巽堂一先草籠

皆魚より出朱と光けの食物籠ハ是也  
如様より後入の白珠をころに之ゆかふは  
同よりして作系所ハ五字の内二字がふは  
まとも一白はまともを本と改へし  
とも一白はまともの含掌村といふ難い方へ

○倭名書之事

中載ハ張丸成日本のはを書史會要に載  
たり故に性たより用ひまわり村といふま

たよハ月まつき山をやま色といふかく  
まよりかあはら一吸や佛浴より用ひまらんや一  
まてわりしり一 倭名がきの文字ハはくに記

辻ノ堂 白壁 杉

ミカ と茂助

テと 宗周

辻堂乃白壁擬ハ愁あらん巡礼かゝの爲拜志  
より句作らるるは 斤 倭名中列すこと  
佛偕の一體なり

九連綿字之考

連綿字ハ冠ウ着ウ作ウ下ニ凡クミタリテハ

乾坤

宇宙

庶廡

城廓

田疇

稼穡

氣形

麟鳳

鳳凰

蛤蜊

鸞鶴

猿猴

支脉

肺脾

鬢髻

髑髏

肝膽

眼膜

態貌

蛆語

婀娜

蹀躞

慇懃

徘徊

生植

梧桐

芙蓉

枇杷

菖蒲

蒲萄

食眼

心驚

兩襠

袈裟

醜醜

饑饉

笑財

琴瑟

帟帟

幣帛

兩傍

遠條

右連綿字ハ連綿字として別々としてる類

まー大槩をよるもの

十二物之事

是ハ別々ヨリ和ニツケテ連続トシテ作り置

乾坤中ハ

野籬

雨露

山林

陰陽

春秋

氣形中ハ

亀鶴

大鷄

龍虎

狐狸

燕鶯

支絳中ハ

容顏

頭項

眉目

心肝

手足

態藝中ハ

性理

科系

邪正

綱目

得失

生植中ハ

松竹

蘭蕙

榛栗

桃李

梅竹

食服中ハ

酒茶

湯羹

酒肉

錦繡

看射

器成中ハ

金銀

甲冑

弓矢

力杖

筆砚

この外何程も多し一爰示ハ大畧ト載リ

十三物之事

貪嗔癡

儒教道

過現來

身中意

天地人

智仁勇

名うればなきもの

①底返りの事

底よりこころのよみ下と表すて、返りて下

らへるべきこと

習字

習字

備池

細京

無心

看經

習字

習字

備池

細京

無心

看經

まうて對より一對句譯して付るもの

又唱句返りてまうるに底返りて對を所を

可いひ字の類のまうるもの

②朱川之事

朱川を所へるもの名前の名書物乃名なり是位

それくせりありてこれ名國の名おの玉のまうれ

くま對より一平仄をわけてまうて字對より

りてまうる字對よりいれおすなり人の名壁に

山谷とわけて東坡これ二字を乾坤門の字なり

馬生とわけて赤人これ馬と赤は乾坤門の字主

と人との氣形内乃字をわけてはついでに對より

子諾し觀海の語と因しく乾坤の字はて對と  
ともも子ハ氣形門顔ハ主筋門也とい二字對は次也  
とも未川やう故對とも之時改子類朝の類も  
是うてあふ人し但唐人乃名と日名人ハ名と對と  
つ次或ハ中谷ハ道風ハ字也ハ乾坤のりて字ハ陸  
村也わくも中谷ハ唐人道風の日本人がせぬく乃  
類朝ハ對しと云々す名所年号等と同是  
所乃名しんハ上野ハ近江松崎ハ條原ハわく字  
對して上野ハ又類朝ハ高雄ハ至ハ懐朝ハ

朱川狂序

字ハ對せさむとも朱川改對とていハ

右所中ハハ名たとも窓ハ朱川とていとも不  
ニリ川中の朱川ハ物の平たニツハ身まるとし

西文字用ハ極ハ事

譬ハハ香ハ字カハとていハわく生植と  
ハ香具ハハ字用ハ向ハ窓ハハナリ也芳ハ字カ  
うくハとていハ虚押ハとていハ青ハ  
月とハ花ハハありて生植ハハ極ハ

とくむらわし虚押中と介く也音子用を以て生  
植ふがる茂多 蕪乃字以類も同ふ同音子  
用をくうりやひ乃くうて乾坤やとりの閑寂  
幽乃字とちうかり 詩乃字詩を作をうりて  
字かり詩支詩書乃くうり用いて、其故もあ  
文書章乃字も同是く桐字字まりとくうりて  
生植かりみとくうりて、其故もあ 枯の字と  
同ふ琴うりたりて、其故もあ 北と

乾坤と乳形と通用の字

日月 星 虹 霓 雷

乾坤と悉賊通用の字

軒 廉 門 戸 榜 瓦 甍 椽 碑 林 石  
灰 炭 楠 柵

乾坤と支幹と通用の字

趾 牙 氣 夢 角

乾坤と支彩通用の字

日月 星 電 露 煙 煤

乾坤と態藝と通用の字

夢中封居處虛空彼泥堆載  
代遠近上下內外前後表裏

乾坤之生植之通用

林苑森節

氣形之態藝之通用

雄漁樵牧

氣形之支辨之通用

羽翼鱗翰角毛

氣形之光彩之通用

日月星鳥鳥兔兔管管日上上盤

氣形之器財之通用

貝蟻鷓

氣形之人倫之通用

雄漁鰥獨孤

人倫之態藝之通用

賢愚樵漁盜賊化將表老弟

自佗雄勇侶

支辨之態藝之通用

華新情 習瘡病 盲瘡

生植と紫財と通用

紫 奈 茗 香 瓢 藥 棠 新

生植と光彩と通用

紅 翠 綠 棠

紫財と態藝と通用

權 綠 粉 飾 詩 文 章 歌 同

紫財と光彩とあつた字

丹 朱 金 銀 墨 玉 碧 粉 錦 黛 盡

白 薄 呢

光彩と態藝兼ふ字

清 淡 濃 濁 殊 然 薄 呢

数量と態藝と通用

重 皆 分 長 短 多 少 細 同 諸 教 幾 雙

云々いふ文字は省く一是封白く字より多し時可用

(五) 假名書乃文字此中

月と都省又和計 雲と朽岡 風と加前 西と下

霜と疎満 雲の似計 夜と猶ほ 雲の去州 山と心使

水と眼末 珠と他賞 筆と分直 墨と疾跡 箱と心守

硬と松蘇利 頭とか皇羅 年と提 酒を心嫌 杉と松計

松と坪止 酒益を晒加勝計 強盛と六宿鼻隨

此類乃の字かき不可勝計也

(因) 漢之句四季文字事

○春

曉芳 春の乃 春の 日上 散気 春の 春の 春の 春の

踏青 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

櫻水 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

晴嘯 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

香村酒 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

花信風 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

禽啼 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

花柳足 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

花有句 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

雨氣 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

柳絮 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

緑情 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の 春の

桐花曆

宇に徳福して之因の時もさす  
物衣乃雨もしてまをるるを曆に記す

香已抄

春一長

春の早くもあはれ  
まのやうにいと

餓春

まのやうにいと  
さびしいまの

魚餃

○夏

備和

月すの果はたまは  
まのやうにいと

迎梅雨

四月の  
まのやうにいと

新涼

まのやうにいと

緑迎夏

まのやうにいと  
まのやうにいと

梅天

五月の  
まのやうにいと

花富貴

まのやうにいと

十三紅

まのやうにいと  
まのやうにいと

緑勝花

まのやうにいと  
まのやうにいと

山如滴

まのやうにいと

蕉書函

まのやうにいと  
まのやうにいと

柳翠蓋

まのやうにいと  
まのやうにいと

朱絲繡

まのやうにいと

霧

まのやうにいと  
まのやうにいと

梅燭

まのやうにいと  
まのやうにいと

朱絲繡

まのやうにいと

河雨

まのやうにいと  
まのやうにいと

た沸

まのやうにいと  
まのやうにいと

南萱

まのやうにいと

暑

まのやうにいと  
まのやうにいと

突熱

まのやうにいと  
まのやうにいと

驅暑

まのやうにいと

突塵

まのやうにいと  
まのやうにいと

痲書

まのやうにいと  
まのやうにいと

早霖

まのやうにいと

火埃

まのやうにいと  
まのやうにいと

暑埃塵

まのやうにいと  
まのやうにいと

暑知醉

まのやうにいと

風解

まのやうにいと  
まのやうにいと

秋道

まのやうにいと  
まのやうにいと

秋道

まのやうにいと

○秋

初涼

まのやうにいと  
まのやうにいと

金丸

まのやうにいと  
まのやうにいと

梧翻葉

まのやうにいと

撥殘暑

まのやうにいと  
まのやうにいと

血雀風

まのやうにいと  
まのやうにいと

梧雨

まのやうにいと

金剛 秋乃る 葉語 秋のうらやま 桐涼 秋のうらやま

素景 秋の素とて 疎柳 秋の素とて 楓錦 秋の素とて

紅樹 秋の素とて 青うたのけり 空谷 秋の素とて

雁雲 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

○冬

枯葉 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

雁雲 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

雁雲 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

楓影 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

雁雲 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

雁雲 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

雁雲 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

○雜

雲龍衣 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

詩師 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて

雲似蓋 秋の素とて 寒砒 秋の素とて 冷 秋の素とて



このりつをまわりの虫とカクもたつりまう  
此一帖ありけりまきとあはれりめん事よ記  
しよひありとうあはれりめん事よ記

露吹房

和及



元禄十年丁丑孟春穀旦

浴下書林

新井彌兵衛版

改板をよま記之略

鎌武之祖赤良長頭翁之嫡門良徳之末

良保孫々以正統分傳常年あり

和及竹亭と師北傳ありて、

亀林と名は傳られもはるりふ

五十と勢ありいふ

又因て書を傳へりて

か冬改刻新井氏の書よ知るか

いきて世よ冬きも花ハ止む

の道水へ流すに如く一死を百の病  
牙利くも速き言もれ也

京都府 石巻市 虎

豊中

享保七年歲上月在辰

改正新板御刻之也

時庭任  
井上氏

皇都書林

新井弥兵衛  
田中庄兵衛求板



宝曆拾遺子十卷

訛語不了すき細目

下巻

